

少年
サッカー

全国大会で審判

第38回全日本少年サッカー大会決勝大会（8月3日～9日・静岡県裾野市ほか）に、審判として池添将大君（17）＝大分西高校3年、大分市城南北町＝が参加する。「全国大会で審判をするのは初めて。緊張もするが楽しみ」と話している。

決勝大会は、各都道府県が決勝大会で審判を担当。県代表1チームに前年度優勝チームを加えた計48チームが出場する少年大会では最も大きな全国大会。

「的確なジャッジをしたい」と話す池添君＝大分市賀来南の大分西高校第2グラウンド

池添君は小学生でサッカーを始め、審判員試験2011年から、若手の経験を積んで、興味を育成のためにユース審判を持った中学2年のときに4級、高校2年で3級の

ユース、県内初の派遣

審判員資格を取得した。これまで県の高中生リーグや高校1年生大会、所属する大分西高校サッカー部の練習試合などで審判をして経験を積んできた。周囲も「的確に判断して素早く動き、ポジション取りもうまい」という。

選手として所属する大分西高校サッカー部の首藤啓文監督（49）は「選手、審判としても真面目に取り組んできた」と評価。池添君が審判の目を持って仲間にアドバイスしており、反則が減るなどチーム全体のプレー態度も変化してきたという。

決勝大会は県外では初めての審判になる。「小学生にも分かりやすく、的確なジャッジをして、試合がスムーズにできるようにしたい」と意気込んでいる。

（渋谷優子）



池添将大君＝大分西高校3年＝